

# 大学等における産学連携等実施状況ダッシュボード 機能のご紹介

このダッシュボードには、データをより深く分析したり、ご自身の資料の中で活用したりするための便利な機能が備わっています。本資料では、特によく使う3つの操作方法を解説します。

## 1. フィルタ機能

---

設置区分や地域で対象を絞り込んだり、機関名を指定してグラフを表示することができます。

## 2. ダウンロード機能

---

グラフや表を画像としてダウンロードして、各種資料へ活用したり、グラフのデータをダウンロードしてExcel等で自由に加工することができます。

## 3. 要素の削除（除外）機能

---

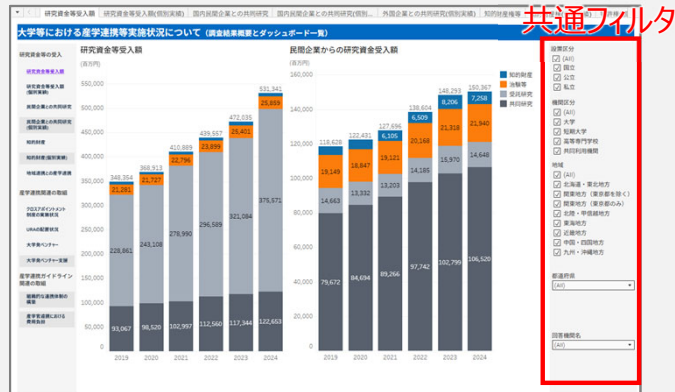
グラフから任意の不要な項目を一時的に隠して、視覚的に比較しやすいグラフに整えることができます。

# 1. フィルタ機能

全体データの中から「特定の地域」「特定の機関」など、自分が必要な情報だけをピックアップして確認することができます。フィルタには「共通フィルタ」と「グラフ個別フィルタ」の2種類があります。

## 共通フィルタ

共通フィルタはダッシュボードの右側にあります。すべてのダッシュボードのグラフに対して絞り込みが反映されます。



機関区分や地域等を絞ったうえで、「回答機関名」フィルタを使うと、対象が絞られた状態でリストが表示され、個別の機関を選択することができます

設置区分

- (All)
- 国立
- 公立
- 私立

機関区分

- (All)
- 大学
- 短期大学
- 高等専門学校
- 共同利用機関

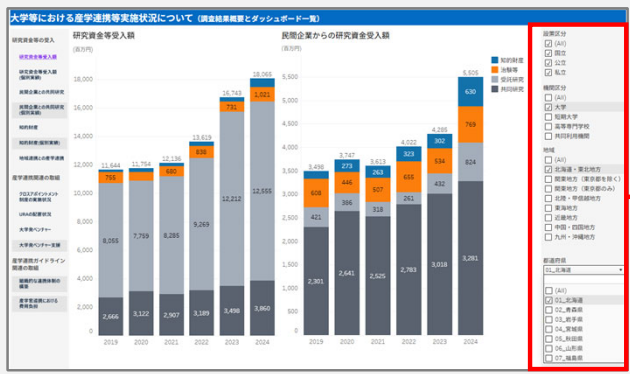
地域

- (All)
- 北海道・東北地方
- 関東地方（東京都を除く）
- 関東地方（東京都のみ）
- 北陸・甲信越地方
- 東海地方
- 近畿地方
- 中国・四国地方
- 九州・沖縄地方

都道府県

- (All)
- 01\_北海道
- 02\_青森県
- 03\_岩手県
- 04\_宮城県
- 05\_秋田県
- 06\_山形県
- 07\_福島県

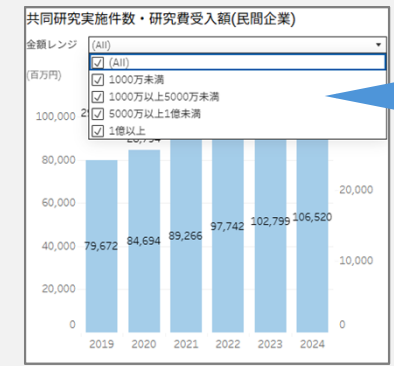
例えば、「機関区分：大学」「地域：北海道・東北地方」でフィルタをかけると、北海道・東北地方にある大学のデータをピックアップしてグラフが再描画されます。



## グラフ個別フィルタ

特定のグラフには、グラフ個別フィルタが設置されています。該当グラフのみに絞り込みが反映されます。

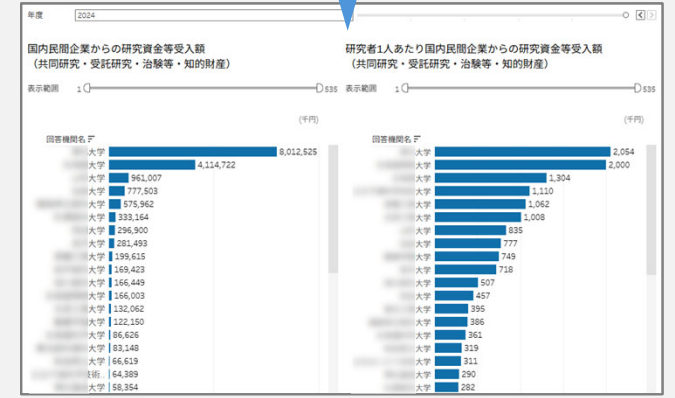
### 【金額レンジフィルタ】



左グラフの例では、1件あたりの受入額の金額レンジによって、グラフ表示対象データを絞り込むことができます。

### 【年度切り替え／表示範囲フィルタ】

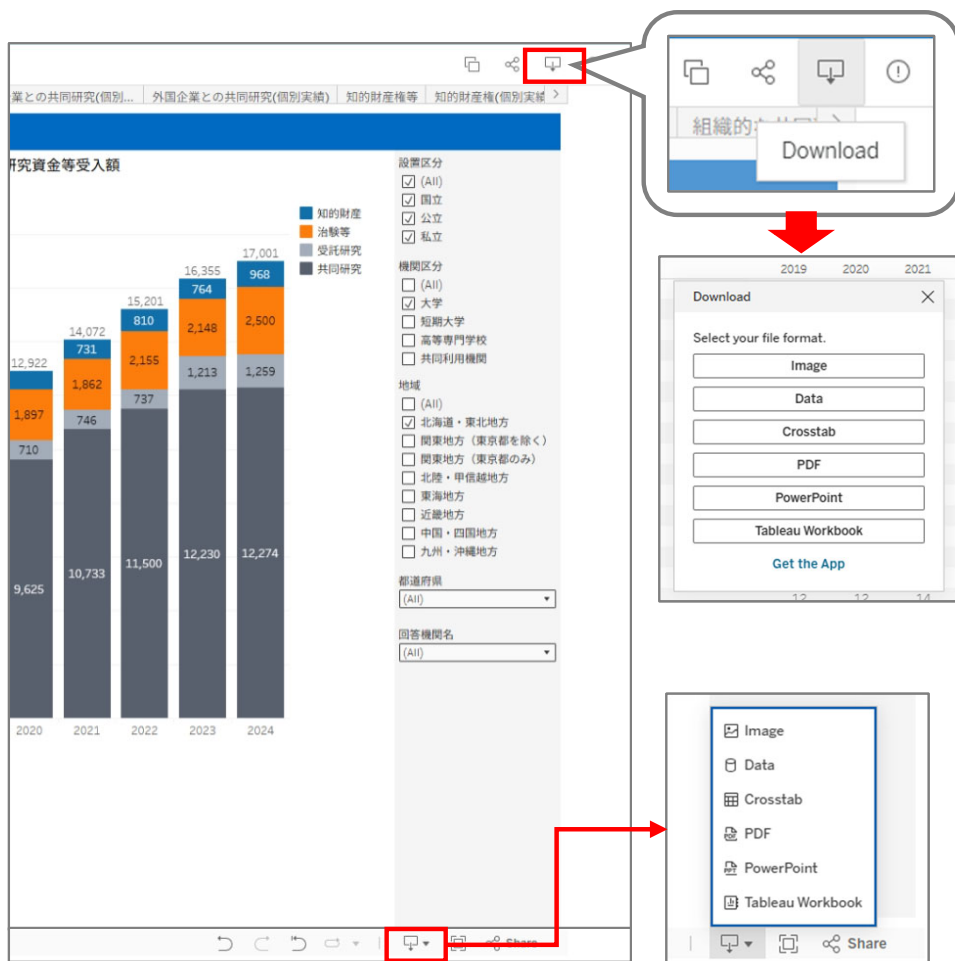
単年度データを表示するグラフでは、表示対象年度を変更したり、機関比較を示すグラフでは、表示範囲を変更することができます



## 2. ダウンロード機能

表示されているダッシュボードを画像（PNG／PDF）として保存したり、グラフを構成する数値をExcelデータとしてダウンロードすることができます。

ダウンロードボタンは、ダッシュボード上部右側、下部右側の2か所にあります。どちらを使っても機能は同一です。



(注)Tableau Public の画面右上に表示される「ダウンロード」メニューの表記は、閲覧者のブラウザや Tableau アカウントの言語設定により、日本語または英語で表示されます

### Image

- ✓ 画面に表示されているダッシュボードの見た目そのままの画像ファイル(PNG形式)
- ✓ プレゼン資料やメール本文等にそのまま貼り付けたい時などに利用

### Data

- ✓ 選択したグラフ・要素を構成する数値データ(CSV)
- ✓ 手元のExcelで二次加工したり、自分で更に集計・分析し直す場合などに利用(Crosstabより情報量が多い)

### Crosstab

- ✓ 選択したグラフのデータを、表形式にしたファイル(Excel/CSV)
- ✓ 手元のExcelで二次加工したり、自分で更に集計・分析し直す場合などに利用

### PDF

- ✓ 現在の画面、またはダッシュボードをPDF化した文書ファイル。用紙サイズやレイアウトを設定できます。
- ✓ そのまま紙に印刷して配布したいときなどに利用

### Tableau Workbook

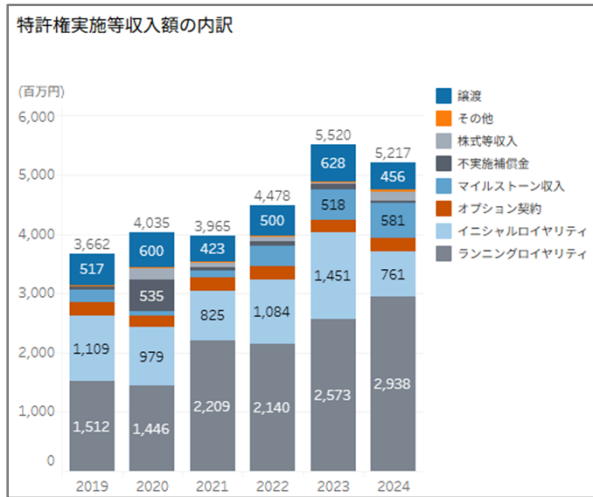
- ✓ ダッシュボードの本体ファイル(twbx形式)
- ✓ 手元のTableau環境で、ダッシュボードを操作したり、データの構成を確認・編集したいときなどに利用

# 3. 要素の削除（除外）機能

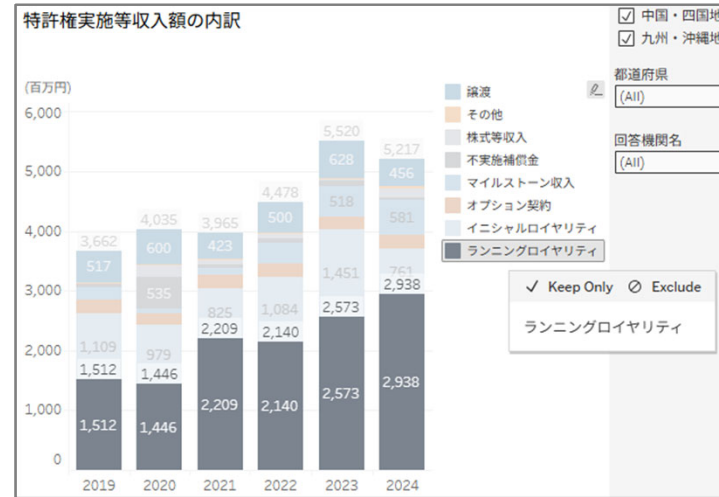
突出して数値が大きい項目や、比較不要な項目を一時的にグラフから除外することで、他のデータの推移を見やすくすることができます。

## ① 項目数が多く、割合の差が大きいグラフで利用

特定の数値が大きくて、相対的な割合が小さい項目の比較がわかりづらいグラフなどで利用します。



## ② 値が大きい項目の凡例を選択し

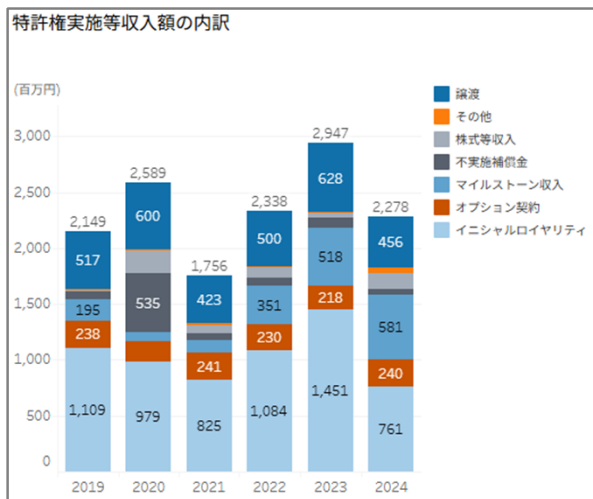


例のグラフでは「ランニングロイヤリティ」の数値が大きいため、除外してみます。凡例を選択した後右クリックして表示される“Exclude”を選択します。

(注) 表示されるメニューの表記は、閲覧者のブラウザや Tableau アカウントの言語設定により、日本語または英語で表示されます

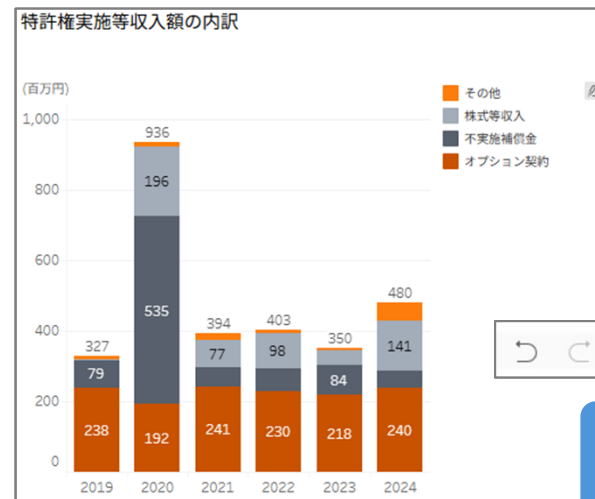
## ③ 項目が除外されたグラフを確認

選択後、「ランニングロイヤリティ」が除外された状態のグラフが再描画されます。



## ④ まだ見づらい項目があれば、他の項目も除外

他にも項目を除外し続けると、当初は数値が小さくて確認できなかった項目の数値や推移を確認することができます。



元のグラフに戻す際には、右下にあるボタンでクリアできます。

